

第1回庄内町立図書館協議会 会議録

開催日時 令和元年5月21日(火) 午後7時00分 開会
午後9時00分 閉会

開催場所 庄内町立図書館 2階自習室

出席者 出席委員 6名 松田透、小野寺姫、松田透、舘林由美子、安藤一雄、奥山洋子、仲條一志

欠席者 欠席委員 1名 信夫幸

事務局 社会教育課 課長 上野英一

庄内町立図書館 館長 渡曾晃

庄内町立図書館 主査兼係長 佐藤晃子

庄内町立図書館 主任 横田祥子

議事日程

1 開会 以下進行 事務局

2 辞令交付 代表：松田委員

3 あいさつ

社会教育課長

継続の皆様や図書館整備等検討委員であった新任のおふたりを含め、委員の皆様には本当にお忙しいところ恐縮だが、図書館と記念館の運営や、さらには図書館整備等について、前向きなご意見ご提言を賜るよう、よろしくお願ひしたい。

図書館の最大の課題が新図書館整備。昨年度、図書館整備等検討会の方から基本計画原案づくりを進めていただき、本協会からもご意見をいただき、パブリックコメント等行った上で、最終的には11月の教育委員会定例会で正式に議決をいただいた。令和3年度の工事着手を想定しており、今年度の当初予算には地質調査と基本設計業務委託料を計上している。図書館と記念館の運営全般について2年間の任期となるが、ご協力をお願いしたい。

図書館長

新規に図書館協議会委員になられた方と昨年より引き続き図書館協議会の委員の皆様には、よろしくお願ひしたい。これまでも委員の皆様のご指導ご助言をいただき、そのお陰で入館者数が若干であるが増えた。分館の頑張りもあるが、貸出冊数も含めて、減少傾向に歯止めを打つことが出来た。さらに新館建設に向けて微増を続けて行ければと思うので、今年度も色々な面についてご助言いただきたい。

4 自己紹介

各自

5 委員長及び副委員長の選任について

《事務局説明》

庄内町立図書館設置及び管理条例施行規則第19条の規定より、庄内町立図書館協議会に委員長、副委員長を置き、

それぞれ委員の互選によりこれを選任する。

推薦により 委員長：小野寺姫 副委員長：仲條一志 選任

《委員長あいさつ》

毎年この時期は、昨年の反省と本年度の計画についての協議となるが、職員の皆さんの努力により、来館者数が少し増えて来た。年々新しいアイデアによる取り組みが実を結んでいると思う。

つい最近、樋渡浩先生の展示に合わせた昔語りの企画が2回あった。内藤秀因水彩画記念館の中に、本当に昔語りを聞きたくて来ている人が30人くらい集まっている雰囲気を今まであまり見たことがなかった。子どもたちのことばかりを対象にしてきたが、これからは様々な目的を持った人たちが集える場所としての役割も凄く大きいと思う。上手く企画し成功させてくれた職員の取組みが素晴らしい。皆さんと協力して図書館建設や日々の図書館の運営について色んな意見を出していただければと思う。よろしく願います。

6 報告事項 座長 委員長

- ・令和元年度庄内町立図書館運営計画について
- ・令和元年度庄内町立図書館協議会年間計画について
- ・令和元年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
- ・令和元年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館年間事業計画について

《事務局説明》

資料に基づき、一括説明。

委員長 皆様の方から何か確認したいことかあればどうぞ。

委員長 8ページ目の「としょかんこどもまつり（仮称／新規）」の様子はどうだったのか。

事務局 参加の様子を報告すると、「大勢の子どもたちが連日来た」というような大きな実績はあげることは出来なかったが、昔語りの会を「としょかんこどもまつり」と一緒に抱き合わせた取組みによって、これから目指すべき新たな方向性を見出すことが出来た。昔語りを聞いていた子どもは2～3人。大半は大人だったが、昔語りは次の世代に大事な地域文化として伝えて行かなければならないと実感した。館内での工作やクイズのイベント以外にも、立谷沢のイベント「子どもこいこいまつり」にも移動図書館として参加した。そちらのイベント自体にはたくさん人か来て、町の中にある図書館の存在感意義発信は出来たと感じた。

委員長 館長の考えはどうか。

館長 子どもたちの町立図書館利用が減少している。図書館がどういう所か知らない子どもたちも多く、学校の図書館との違いや幅広く色々なことが出来る場所として子どもたちにもっと知って貰いたい。色々な活動が出来ることを体験して貰いたい。そのことの積み重ねだとは思う。大幅な利用増加がなくとも、少しずつの積み重ねによって段々広まって行くことを目指していきたい。

委員長 昔語りの会を聞いての感想だが地域文化の伝承の面もあるが、語った人たちも町民の前でやる場があったというのが楽しかったと思う。図書館がやる人、町民が聞く人、ではなく、やる人も楽しめて聞く人も楽しめる、こういう催しが良いと感じた。

- 委員 今回の催しで子どもが2～3人であとの23人は大人だったとすると、その子どもの親もちろんいるかと思うが、そうではない人たちの年齢層はどうだったのか。
- 委員長 60歳以上。
- 事務局 懐かしいという感じで聞いていた。
- 委員 低年齢層の利用拡大は、親が子どものために借りるのではなく、子ども自身が借りたくて借りるのか。
- 事務局 最近ファミリー層の利用が増加傾向にあり、家族全員のカードで、お子さんのために20冊、30冊借りて行くケースが見られる。
- 委員長 若い母親が「読み聞かせが良い。心を豊かにするには読書が良い」と関心が高くなれば嬉しいが、関心の有無の差が大きいのではないか。ならば利用冊数は多くてもギャップが顕著になってきているのではないか。
- 事務局 習慣づけができてしまうと、また2週間後必ず来てくれるという繰り返しに繋がる。今後、家読の習慣が出来ている家庭との差をどうにか埋めて行きたい。
- 委員長 家読を取り上げ、力を入れて行くのは、現状に合った取り組みで非常に良いことだと思う。
- 事務局 以前と変わった傾向は、団体貸出もしているがそれとは違って、保育士さんが保育園等のカードで何十冊も借りて行く件数も少なからず絵本の貸出冊数増の成果に反映されている。
- 委員長 分館の大人の層が増えている実感はあるか。
- 委員 ある。分館応援団の一人として環境整備を主に考えているが、分館利用増とはいえ本館と比べて、利用者数も少なく、本の数も少ない。本に対し興味のある人も少ない感じがするが利用増は嬉しく思う。また頑張っていこうと思う。
10冊貸出期間があるが2週間で読めるのだろうか。
- 事務局 取り敢えず借り、中身を精査し、斜め読みする本、じっくり読む本、があってもよいのではないだろうか。
- 委員 それが出来るのが図書館。分館利用者に図書館で試し読みし、気に入ったら本屋に行く方もいる。利用は雑誌等が多く、分館にもう少しあれば楽しい。
分館を本館の小さいものにはしたくない。私たちは分館を応援したい立場でどうしたら良いか考えているので、分館は本館と違うやり方があるのではと考えている。
- 館長 本館で出来ないことを分館で取り組んでもらいたい。

委員 分館の独自性を出して、色んな試みをやってみたい。

委員 本館と分館の繋がりを深め、分館を町全体の本の受け渡し場所の位置付けも出来るのではないかと。今もやっているのかも知れないが、インターネットで申し込み、ご希望の時間で受け渡す等はどうか。

委員 現在、それは実施している。

委員 もっとそれをPRして欲しい。

事務局 アナウンスがまだまだ弱いと思っている。

委員 分館が単なる本の受け渡しに終わるのではなく、古い本でも読んだことない本を探して並べて紹介する場所も作った。分館の中に入って貰い、図書館らしい図書館の使い方で頑張っていきたい。図書館内で咳一つするのも気を遣い、息を殺して本を選ぶ環境を改善したい。BGMを流してみたり、コーヒーを飲み、本が読めるような、本館では無理でも小さい場所だから許される場所を作りたい。

委員 狩川公民館は広いので、図書館スペースを更に確保し、照明を設置すれば出来るのではないかと。

委員長 名称が「分館」ではなく、例えば「庄内町立図書館やまゆり館」なら対等な感じがする。

委員 ちょっと違う図書館、こういう図書館もあるという感じにすることが私の目標だ。

・図書館整備事業について

《事務局説明》

委員長 暫時休憩します。

委員長 再開します。

7 協議事項

(1) 庄内町立図書館事業評価平成30年度分について

(質問等なし)

(2) その他

「庄内町読み聞かせボランティア等研修会ならびに情報交換会」及び「つちだよしはる絵本原画展」のご案内

8 その他

9 閉会